

『モンゴル研究』投稿規程・執筆要領

<投稿規程>

1. 名称及び発行

本編を『モンゴル研究』(JOURNAL OF MONGOLIAN STUDIES) と称し、原則として毎年1回発行する。

2. 投稿資格

投稿できる者は、原則として、モンゴル研究会会員に限る。ただし、次のいずれかに該当する場合には投稿を認めることがある。

(1) モンゴル研究会の依頼により、モンゴル研究会で講演、発表等を行った非会員。

(2) その他、会員の推薦があって、編集委員会が適当と認めた者。

3. 投稿内容

モンゴル研究に関する未発表原稿で、原則として研究会の例会などで報告したもの。その種類は論文、研究ノート、調査報告、翻訳などで、編集委員会が適当と認めたもの。

4. 原稿の分量及び様式

(1) 原則として、原則として、論文は50枚以内(400字詰め原稿用紙換算、図表や注を含む)、研究ノート30枚以内(同)。その他の原稿も50枚を超えない。制限を超える長文原稿は、編集委員会の承認によって受理または分割連載されることがある。欧文・モンゴル文の場合も、これに準じる。

(2) 原稿の様式や提出方法については、執筆要領に準じる。

5. 投稿申し込みと締め切り

投稿を希望する者は、WEB上に公開される編集委員会の指定する投稿申し込み期限までに投稿申込書を提出し、指定された締め切り日までに原稿を提出する。

6. 原稿の提出

印刷された原稿1部と電子ファイル(原則としてMS-WORDによる。ただし注の連番機能などの自動作成処理機能は使用しない)を編集委員会へ提出する。

7. 論文等の審査及び掲載の可否

(1) 編集委員会は、審査の結果、必要ならば原稿の修正を求めることができる。

(2) 編集委員会は、審査の結果等に基づいて掲載の可否を決定する。

8. 校正

審査結果を反映した最終原稿の校正は執筆者自身の責任において行い、編集委員会の指定する書式にそった完全原稿として指定された期日までに提出する。

9. 掲載の経費

掲載に要する経費は原則として無料とする。

10. 著作権利用の許諾

投稿者は、モンゴル研究会に対し、当該論文に関する著作権の利用につき許諾するものとする。

11. 論文等の電子化及びコンピュータ・ネットワーク上での公開

(1) 論文等は本会WEBサイト上で公開される。

(2) 執筆者が公的機関等のリポジトリに本誌掲載論文等の公開を希望する場合、原則として認められるが、編集委員会にその旨を届けなければならない。

<執筆要領>

1. 原稿について

(1) 原稿用紙はA4を使用、1ページ=40字×40行とする。

(2) タイトルの後には執筆者名のみ記し、所属、肩書きなどは一切記入しない。但し海外からの投稿には、末尾に(内蒙古大学)などのような情報をふる場合もある。

(3) 原稿にはタイトルおよび執筆者名の英文表記およびモンゴル文表記を添える。

(4) 本文の形式

本文は横書きとする。特に希望のない場合は、章立ての形式を次の通りとする。

はじめに (序、序文など)
I
1.
(1)
II
.
.
.
おわりに (結び、結論など)

(5) 図表

図表を入れる場合は、図表のタイトルに通し番号(図1、表1等)を付ける。出所を明記する。本文中での図表の位置を明示する。

(6) 写真

写真を入れる場合は、図表のタイトルに通し番号(図1、表1等)を付ける。本文中での図表の位置を明示する。

(7) 注・参考文献リスト

1) 注には、①出典を示す注、②補足説明のための注の2種類があるが、それぞれ以下の通りとする。

①出典を示す注

・本文中にその著者の姓と出版年、ページの範囲を()に入れて示し(著者姓 発行年代: 頁)、参照する文献は本文末の参考文献リストにまとめて記載する。

例) 信仰は身体性・儀式性を薄めて、より精神的・主観的なものと見られるようになった(石橋 1997: 89)。

例) ジョーンズは外科手術分野を担当した(Smith 2005: 1-20)。

・ページ番号とページ範囲は、その文献全てが参照される場合には省略される。著者の姓は、記述される文中に表れる場合かつこ内では省略される。

例) ジョーンズ(2001)は外科手術分野を改革した。

・2-3人の著者を参照する場合は、「and」や「&」(アンパサンド)を使用して記述する。

例) (Author, Smith, and Jones 1991)、(Author, Smith & Jones 1991)

・「その頁から次頁まで」は(f)、「その頁以下」は(ff)と記述する。

例) 世紀転換期のハンブルクの例だが、新生児のうちで受洗した者は73%にすぎなかったし(Jones 2001: 23f.)、全結婚件数のうちで教会婚は84%にすぎなかった(Smith et al. 1989: 45ff.)。

・4人以上の場合、「～ら」(et al.)を使用して記述する。

例) (Author et al. 1992)

・出版年が不明の場合、「不明」(著者名 n.d.)と記述する

例) (Deane n.d.)

・重版された参考文献を参照する場合は、角括弧に元の出版年を記述する。

例) (Marx [1867] 1967: 90)。

*参照は引用の直後に挿入するか、その文末の句点の前に置く。ただし、複数の文章にわたって引用を行った場合は、句点の後に置く。

②補足説明のための注

・補足説明のための注註は脚注の形式とする。

・注記は、各ページの最下段にその都度掲載する。

・註番号は、論文全体を通しての通し番号にする。

2) 本文末に参考文献リストを掲載する。書き方は原則として下記の通りとする。

*記載の順序：第一著者のアルファベット順に並べる。同一著者の文献は発行年順にならべる。

同一著者の同一年の文献には発行年に a,b,c 等の添字を付ける。

例) 2005年の場合、最初のを(2005a)、2つ目を(2005b)とする。

①日本語文献

・論文の場合

著者名(発行年)「論文名」『掲載雑誌名または書籍名』雑誌号数: 掲載ページ. 発行者または出版社名。

例) フフバートル(1999)『『内蒙古』という概念の政治性』『ことばと社会』5: 78-97. 三元社。

• 書籍の場合

著者名(発行年)『書籍名』発行所または出版社名。

例) 坂本是忠(1974)『辺疆をめぐる中ソ関係史』アジア経済研究所。

* 著者が複数の場合 本の掲載順に・で区切る。

例) 小貫雅男・伊藤恵子(2016)『菜園家族の思想 — 甦る小国主義日本』かもがわ出版。

* 訳書の場合

例) T. ナムジム(1998)『モンゴルの過去と現在』上巻(村井宗行訳)日本・モンゴル民族博物館。

• 新聞の場合

新聞名「記事名(または欄の名前)」年月日朝刊・夕刊別,版(面)。

例) 朝日新聞「社説」1998年12月23日付朝刊,12A(2)。

例) 郡千寿子(2006)「ことばの不思議 — 語彙多い日本語」、『新潟日報』2006年8月28日付朝刊,10(18)。

② 欧文献・モンゴル語文献(*言語によって異なる)

• 書籍の場合

著者名(発行年). 書籍名イタリック体, 出版地: 出版社名.

例) Iarosshi, Giuseppe (2006). *The Power of Survey Design*. Washington: The World Bank.

例) Адьа, Я (2000). *Монгол тарвага биологи, экологи, хамгаалал, аж ахуйн холбогдол*. У.Б.: Адмон хэвлэлийн газар.

例) Понне, Н. Н. (1931). *Материалы по солонскому языку*. Л.: Изд-во АН СССР.

• 論文の場合

【本の中の論文】 例) 著者名(発行年). 論文名. In: 編者名. 書籍名イタリック体, 掲載号数, 掲載ページ, 出版地: 出版社名.

例) Kiparsky, Paul (1968). Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms(eds) *Universals in Linguistic Theory*, 171-202. New York: Holt, Rinehart and Winston.

【雑誌の論文】 例) 著者名(発行年). 論文名. 雑誌名イタリック体, 掲載号数, 掲載ページ.

例) Bennett, M. J. (1986). A developmental approach to training for intercultural sensitivity. *International Journal of Intercultural Relations*, 10(2), 179-196.

③ 中国語の場合

著者名(発行年)『書籍名』出版地: 発行所か出版社名.

例) 張大宣(1983)『外蒙古現代史』台湾: 蘭溪出版社.

④ インターネットサイトの文献

著者(年)「題名」入手先 URL.(閲覧日)

例) 内田樹(2010)「エクリチュールについて」内田樹の研究室 http://blog.tatsuru.com/2010/11/05_1132.php(閲覧日:6月3日)

3) 参考文献の入力に際しては、執筆要領補則を参照する。

(8) 提出された原稿は返却しないものとする。

2. ネイティブ・チェック

母語(第一言語)でない言語で執筆した場合は必ずネイティブ・チェックを受けた上で提出すること。

3. 原稿の提出

原稿のファイルを提出する。

文書ファイルは原則として、注の連番機能などの自動作成処理機能は使用しない MS-WORD 形式、またはリッチテキスト(.rtf)とし、それ以外の場合はテキスト(.txt)に変換する。

図表を入れる場合は、原稿のファイルとは別に、原則エクセル形式の図表ファイルを提出する。

写真や特殊な図を用いる場合は、原稿のファイルとは別に、解像度の高い画像ファイルを添付する。また、使用ソフトのバージョンも明記する。

原稿に挿入する写真は、原稿ファイルとは別に、元の写真に通し番号を付け(写真1、写真2等、できればタイトルも)、一枚ずつ JPEG ファイルにして提出する。

モンゴル語や諸外国語、言語学記号等については、印刷原稿上で正しく打ち出されていることを確認し、MS-WORD 形式で標準装備されていないフォントについては、フォントを添付すること。

提出方法は電子メールにファイルを添付して送信するか、サイズが大きい場合は、原稿のファイルを保存した CD または USB メモリーを郵送する。

執筆要領の補則：参考文献を入力する際の注意事項

1. かっこ（ ）の入力について

(1)本文中の出所を示す注のかっこ（ ）は全角。

(2)文章末の参考文献のかっこ（ ）について

①モンゴル文の場合（英文等半角の文章の場合）半角。

*モンゴル文（英文等半角の文章）の場合、読みにくいので、左かっこ（の前と、右かっこ）の後に、半角のスペースを入れる。

②日本語文献の場合は全角。

2. 半角スペースを入れる場合

(1)上述、参考文献のモンゴル文（英文等半角の文）で

①左かっこ（の前および、右かっこ）の後。

(2)参考文献のモンゴル文（英文等半角の文）で

①文中のカンマ（,）ピリオド（.）の後。

②コロン（:）の後。

(3)本文中の出典を示す注において

①著者名と出版年の間

（Адьяа 2000）

①コロン（:）の後。

（原山 2009: 125-162）

3. 英文文献の書き方例 カンマ（,）、ピリオド（.）、コロン（:）、スペースの入れ方

【本の中の論文】

例) 著者名（発行年）. 論文名 . In: 編者名 . 書籍名イタリック体 , 該当ページ . 出版地 : 出版社.

Kiparsky, Paul (1968) . Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universals in Linguistic Theory*, 171-202. New York: Holt, Rinehart and Winston.

【雑誌の論文】

例) 著者名（発行年）. 論文名 . 雑誌名イタリック体 , 掲載号数 , 該当ページ .

Bennett, M. J. (1986) . A developmental approach to training for intercultural sensitivity. *International Journal of Intercultural Relations*, 10(2), 179-196.

4. 脚注及び文末の参考文献の最後には、モ文や英文の場合はピリオド（.）、日本文の場合は句点（。）を 入れる。